# 道徳の時間

公開授業①

-Challenge to Creative Lessons- CCL

## 子どもたちと「働くこと」について考える
### ―読み物資料と東日本大震災の実話を通して―

第１学年　大橋　美代子

### １．道徳の時間における指導方法の工夫について

道徳の時間―。それは子どもたちが自分自身を見つめ，新たな価値観に気づき，よりよい生き方について考える時間でなくてはなりません。そのために，私たち教師は道徳の時間の中で，目の前にいる子どもたちの実態に合わせた最も適切な指導方法を選択し，工夫しながら実践していく必要があります。私は，以下にある「道徳の時間に生かす指導方法の工夫」の中から，子どもたちの実態に合った指導法を工夫することで，思いや考えがより効果的に生み出されるようにしていきたいと考えています。

〈道徳の時間に生かす指導方法の工夫〉[1)]

１．資料提示の工夫・・・想像・共感をかきたて，子どもを道徳資料の世界へひきこむ（読み語り，紙芝居，ペープサート，ビデオ映像など）

２．発問の工夫・・・子どもの心を動かし，多様な考えを引き出す（発言の自由度や考える必然性があり，心が揺さぶられる発問）

３．話し合いの工夫・・・子ども相互に多様な考えを学び合い，深め合う（多様な意見を引き出す意図的指名，ペア・グループ討議など）

４．書く活動の工夫・・・個別化の中で個性的な考えが深められる。自らの考えを深めたり，整理したりできる。（吹き出し，手紙など）

５．表現活動の工夫・・・一人ひとりの考えが引き出され，一層深められる。（実際の場面の追体験，役割演技，動作化など）

６．板書の工夫・・・子どもの思考を深める手がかりとなるもの（話し合いの中心をクローズアップ，意見の違いを捉えやすいよう類別化など）

７．説話の工夫・・・子どもに伝えたいことを教師自身の言葉として伝える（日常生活でのエピソードの紹介，教師自身の体験談など）

本時は，上記の指導方法の中から子どもたちの発達段階や実態に合わせ，「４．書く活動の工夫」と「５．表現活動の工夫」を入れ込みながら授業を構成しました。

**○表現活動の工夫**

１年生の子どもたちは，資料に引き込まれ，お話の世界の中で登場人物になりきって演技をすることができます。自分の思いや考えを言葉や動作などで素直に表すことは，道徳の授業では不可欠です。今回は，主人公であるくまさんと，くまさんにお礼を言うやぎさんにわかれて役割演技をさせることで，くまさんの仕事に対する喜びや達成感などに気づかせたいと思います。

**○書く活動の工夫**

終末に，本時で深まった自分なりの思いをワークシートに書くことで自分自身を振り返らせ，考えを整理させます。冬休みの仕事に対するお家の人からの喜びのコメントを聞くことで，「働くことの喜び」を感じさせ，今後の意欲へとつなげたいと思います。さらに全体で交流させることで，多様な考えに気づかせたいです。

### ２．本時の価値項目である「働く」とは・・・

ある運送会社の社長さんの講演を聞いたとき，私は涙が止まりませんでした。「仕事ってこういうものなのだ」と心に響いた瞬間でした。講演を聴く前まで，日々の仕事を毎日繰り返されることとして行っていた自分がいました。しかし，講演の中で気付かされたことは，仕事のやりがいとは，もちろんそこに賃金というものは発生してきますが，それだけではなく，人にどれだけ役にたって

いるか，必要とされているか，喜んでもらえるかということに結びついているということです。人知れず黙々と仕事を行うこともちろん大切ですが，私は相手に喜んでもらったり，役に立てたと思えたりするフィードバックが自信と誇りを生み出し，これからの意欲に影響すると感じました。

そのようなこともあり，道徳の授業で，子どもたちと「働くことのよさ」について話し合いたいと考えました。

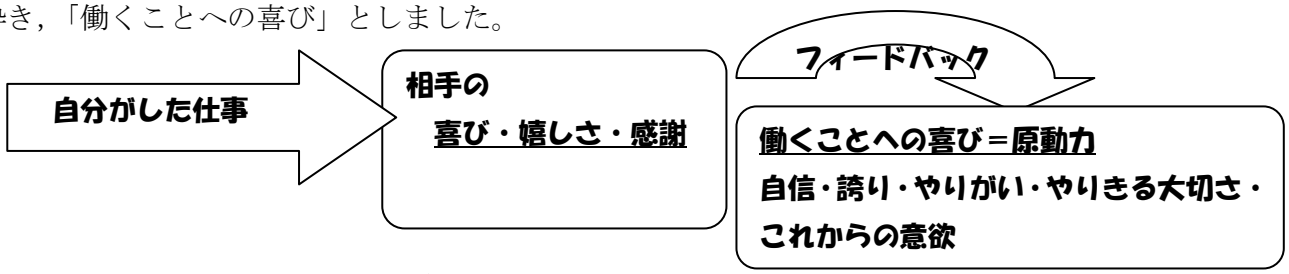
本時の４－（２）の項目について，小学校学習指導要領解説道徳編では次のように明記されています。[2)]

| |
|---|
| ４　主として集団や社会とのかかわりに関すること。<br>（２）働くことのよさを感じて，みんなのために働く。 |

この項目は今回の改訂で初めて低学年に明記された価値項目です。近年の社会情勢からも，ニートや引きこもりの問題がクローズアップされており，若者が働く意欲をもちながら，社会の一員として誇りをもって参画している社会になっていないという実態があります。そのため，低学年のうちから，「働くこと」に対して意識をもって取り組み，系統的に道徳的実践力を養う必要性が出てきたのではないかと考えます。もちろんこの問題は，子どもたちだけに原因があるわけではないですが，これからの社会を担う子どもたちが自分の仕事に対してやりがいや誇りをもってやりきることは，「生きる力」として必要不可欠です。

このようなことからも，本時は「働くことへの喜びを感じてみんなのためにはたらく」という主題設定をし，実践を行います。

今回「働くことのよさ」という小学校学習指導要領解説道徳編の文言を自分自身の中で少し噛み砕き，「働くことへの喜び」としました。




働くことの原動力となるのは，自分のした仕事に対して，相手が喜んでくれるという喜びがあってのことだと考えます。１年生の子どもたちにとっては，このフィードバックこそが今後の意欲につながるはずです。

## ３．手立てとしての題材（資料）の２本立て

今回の価値に迫るために，どのような資料を子どもたちに提示するか悩みました。当初は読み物資料１本（「もりのゆうびんやさん」）で行おうと考えたのですが，働くことの喜びを感じさせるには揺さぶりが少ないなと感じました。子どもたちの心がぐらっと揺らぐにはどうしたらよいかと考え・・・。もう１本資料を提示することにしました。私が心を揺さ振られたあの姿を資料に使うことにしたのです。

東日本大震災直後，物資を待つ人々のもとへ荷物を運ぶために現地に入り，可能な限り荷物を送り届けた運送会社の姿です。ライフラインが途切れた状態では，被災地の人々にとって物資の提供は外部からのみ。そんな過酷な状況の中で，会社が一丸となって被災地に入り，荷物を待つ人々のもとへトラックを走らせ続けました。荷物をまつ人々のために。[3)]

どちらの資料とも，その仕事を待っている，必要としている人がいるということです。２本の資料を通して，「必要としてくれている人たちのために仕事をやりきろう」「自分の仕事に対して喜びを感じ，今後もがんばっていこう」という思いは子どもたちにとって１つにつながると思います。

**〈参考・引用文献〉**

1)　東京学芸大学：「総合的道徳教育プログラム　道徳授業パワーアップセミナー」，p. 63，2010，東京学芸大学.

2)　文部科学省：「小学校学習指導要領解説（道徳編）」，p. 46，　2008，東洋館出版社.

3)　資料：「ヤマト運輸ホームページより」